



写真・文 タカヤナギユタカ

宝尽くし文銘々皿 5枚組 36,750円(税込み)  
奥野仁美 石川県加賀市高塚町へ41 TEL.0761-74-3717

一般的に、九谷焼と言うと九谷五彩(緑、黄、赤、紫、紺青)と呼ばれる和絵具による重厚な絵画調の作品を思い浮かべるが、山中温泉の奥で生まれた、いわゆる古九谷の窯跡からも染付の破片が出ているし、再興九谷の若杉窯でも、盛んに染付の九谷焼が作られている。

眺めるのも、これまた楽しいのだ。器に描かれた文様を謎解きのように

※染付とは、施釉前の素焼きしたものに、呉須と呼ばれる染付特有の絵具を用い、藍色の下絵で染付ける手法の事。

### 奥野仁美さんのお皿

若い九谷焼作家、奥野仁美さんの「宝尽くし文銘々皿」。以前に加賀市大聖寺のギャラリー萩さんでの「爽やか九谷14人展」で見て一目惚れした染付(※)の皿。

奥野さんのお皿に丁寧に描かれている宝尽くしの文様は、「打ち出の小槌」(振れば欲しい物が手に入り、望みが叶う。一寸法師が大きくなる願いをかなえてくれたあれです)、「丁子」(ちようじ・丁字の実を油に入れると貨財を得ると言われ、防臭・防湿に用いたため、厄除けにもなった)、「隠れ蓑」(着ると他人から見えなくなる蓑。天狗の持ち物)、「隠笠」(かぶると消える)、「宝巻」(ほうかん・ありがたいお経が書かれた巻き物)、「金囊」(きんのう・お金やお守り・香料など、大切なものを入れる袋)、「分銅」(金や銀を分銅の形に製造して貯えておいて非常の際には貨幣がわりにしたとも言われ貯蓄を表す)、「七宝」(しっぽう・七宝の名前、また円の吉祥性からか宝物の一つに数えられる)など。

藍一色の器は、モノクロームの写真のようにシンプルでありながら優雅で魅力的だ。日本の伝統的文様である「宝尽くし」は、おめでたいし、愛らしいし、なんだか謎めいていて面白い。

表紙・裏表紙写真 タカヤナギユタカ  
表紙モデル:阿部亮介  
場所:旧中木邸(加賀市大聖寺)



加賀市塩屋海岸

## 加賀日和 vol.4

### CONTENTS

- P38 編集後記
- P37 南加賀の12ヶ月
- P32 マップあります
- P30 つくる・人 小林正男・正俊 (小林漆芸工房)
- P28 日本酒。その一滴に出会うまで
- P26 料理日和 鶏の加賀棒茶 冷やしジュレごはん
- P24 南加賀文学散歩 高橋治 『紺青の鈴』 能美市・九谷陶芸村
- P22 温泉タマゴ食べ比べ
- P20 立ち寄り湯手形
- P18 南加賀「喰いもん放浪記」 つぼ味 片山津温泉
- P16 温泉に入ろう 山代温泉 ゆのくに天祥
- P08 大聖寺町屋の風景
- P06 まちのお店屋さん 小松市 猫の芽工房
- P04 エッセイ「愛しの南加賀」 SWING Cocktail bar&cafe 東 光博さん
- P03 これが欲しい! 奥野仁美さんのお皿